
ずっと、永遠に。

宝玉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ずっと、永遠に。

【Nコード】

N4644D

【作者名】

宝玉

【あらすじ】

神那は一人の少年の帰りを待ち続ける。しかし、不意につけたテレビから、悲惨なニュースを耳にする。

君がいなくなってから、もう何年も経つね――。

私が恋をしたのは、柊 甲斐くん。

甲斐くんが私の横にいてくれないと、なんだか落ち着かない。

信じてる・・・甲斐くんが必ず帰ってくることを。

君はこの町を追い出されたんだよね・・・
そう、自分自身の『弟』をかばって――。

その弟さんは数日後、兄がせつかく守ってくれた命を無駄にして
飛び降り自殺した。もったいないことをしてしまったね。

君がいなくなつて以来、楽しいことは一つもない。
生きる希望をなくした時もあった。
だから帰ってきて。

万が一・・・万が一、君が死んでいるとしたら、私もそっちに向かう。

一人で静かに待っていても、悲しすぎて、寂しすぎて、心が痛むだけだから――。

ピンポン ピンポン

玄関のチャイムが2回ほどなった。誰だろう？

「はい」

「神那、ただいま」

・・・言い忘れてました、私は睦月 神那です。

ところで、この目の前にいる人つてもしかして・・・？

「覚えてる？ 僕のこと」

本当に、甲斐くんですか！ 夢じゃないよね！

私は甲斐くんに抱きつこうとした。そのとき、冷たく、強い風が吹いた。あまりに風が強すぎて、目をつぶった。再び目をあけると

甲斐くんの姿は、そこにありませんでした。ただ一つだけあったのは、ひとかたまりになって落ちている、『葉』だった。

私は泣いた。家の前に座り込んで、近所迷惑かもしれないけど、涙が止まらなかった。

~~~~~

しばらくして泣き止みました。心を落ちつかせるために、部屋に戻ってテレビを見ることにした。

『速報です。少年の焼死体が、○○県の ▲町で発見されました。死体解剖の結果、▲。県に住んでいた、柊 甲斐さん（12）と、

判明されました』

う、嘘だよね・・・ははは、テレビは冗談きついなあっ！  
私は信じない、絶対に！　こんなことは信じない、きっと甲斐くんは帰ってくる。

ブルルルル――

「もしもし、睦月です」

「あ、神那」

電話は、母からだった。今、母は都会に出張に行っている。

「ニュース、見た――？」

「で、でもあれは、し、真実じゃないよ！」

「名字と名前がいつしよなのよ！　現実を見なさい」

「い、嫌だあっ！！！！！！！！」

私はそう叫んでから、電話を切った。

絶対に甲斐くんは、死んではない。

私はそう信じて、ずっと待っているしかない――。

（後書き）

駄文、失礼しました。

短いし、読みにくかったと思います。  
すみません！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4644d/>

---

ずっと、永遠に。

2010年12月30日07時47分発行